

父娘関係がもたらす女子大学生の男性への依存傾向

佐伯峰花

(愛媛大学大学院教育学研究科)

問題と目的 境界性パーソナリティ障害は幼時期に安定した愛情や関心をもらえなかったために認知に歪みが生じ、対人関係がうまく築けないことが特徴として挙げられる。依存性パーソナリティ障害も同様に、機能不全家族など親からの養育態度が原因として挙げられることがある。親との情緒的結びつきは子どもにとって重要であると言える。父親と子どもの情緒的結びつきが希薄な家庭の子どもは、情緒的結びつきが強い子どもに比べて、情緒的安定性や社会的適応性などの発達の遅れや問題が見出されたことで、子育てにおける父親の重要性が示された(柏木, 1993)。父親との情緒的結びつきをうまく形成できなかった女性は、心の寂しさや不安を紛らわそうと父親と同じ異性に対して依存しやすい傾向があるのではないかと考えられる。**仮説 I**「父娘関係が良好でないと男性への依存傾向が強い」**II**「父娘関係が良好でないと恋人への独占・束縛が強い」**III**「男性に依存を向ける女性は、ともにあることを求める、助力を求めるより心の支えを求める傾向が強い」

方法 **調査対象者**：A大学の女子学生計144名のうち6名を除く138名。**調査時期**：2019年7月から10月。**調査方法**：無記名質問紙調査。**調査内容**：①プロフィール項目②対人依存欲求尺度：関(1982)の「依存欲求尺度」を参考に、竹澤・小玉が作成した20項目からなる尺度を参考に作成。③恋愛イメージ尺度：金政(2002)の尺度を参考に、合計28項目からなる尺度を作成。④父子関係における精神的自立尺度：水本・山根(2011)が作成した尺度を参考に作成。⑤父親への親密性尺度：水本(2016)が作成した尺度を参考に作成。

結果 1. 信頼性の検討：対人依存欲求尺度の α 係数を算出したところ、全て概ね十分な内の一貫性が確認された。2. 仮説の検討：仮説Iを検討するため、分散分析をSPSS 26.0で行った結果、父子関係における精神的自立と情緒的依存、道具的依存の間には有意な差は見られなかった($F(2, 135)=1.342, n. s.$) ($F(2, 135)=.924, n. s.$)。仮説Iを検討するため分散分析をSPSS 26.0で行

った結果、父親への親密性と情緒的依存、道具的依存の間には有意な差は見られなかった($F(2, 135)=.950, n. s.$) ($F(2, 135)=.802, n. s.$)。以上から、本研究では仮説Iは支持されなかった。仮説IIを検討するため分散分析をSPSS 26.0で行った。結果、父子関係における精神的自立と独占・束縛の強さの間には有意な差は見られなかった($F(2, 135)=.209, n. s.$)。仮説IIを検討するため分散分析をSPSS 26.0で行った結果、父親への親密性と独占・束縛の強さに有意傾向が見られた($F(2, 135)=2.68, p<.10$)。父親との親密性と男性への独占・束縛に僅かに関連が認められたが、有意傾向であったため多重比較ができなかった。以上から、本研究では仮説IIは、尺度が「父親への親密性尺度」の場合有意傾向が見られ、僅かな関連が認められた。仮説IIIを検討するため、Fisherの正確確率検定を行った結果、5%水準で有意差が見られた($p<.05$)。残差を見ると ± 1.98 より大きい値になっているのはその他であったため、本研究において仮説IIIは「その他に依存を向ける女性」であると支持されることが分かった。

考察 **仮説 I**：父親との信頼関係が希薄であると、父親に頼らずに自分1人である程度のことではできるようになるという考えになり、その考えから男性に対しても依存をする傾向が低くなるのではないかと考えられる。**仮説 II**：独占・束縛は愛着と同伴する心性のため母親との依存や自立が女性の男性への依存傾向に影響を与えているかもしれない。また、有意傾向が見られた可能性として、親への価値観のとらわれが大きく、親への絶対的安心感が低い女性は、男性に対していつも一緒にいることを求めたり、その人の行動などすべてを把握したりすることで絶対的安心感を得ようと、独占・束縛傾向が高くなることがあると考えられる。**仮説 III**：女性は恋人や片思いの相手に対して、ともにいること、心の支えの両方を同じくらい求めているのではないかと考えられる。依存対象が親友や友人になると、恋人や片思いの相手よりも気軽に仕事を頼めるようになることが分かった。